

田和山遺跡

・神後田遺跡



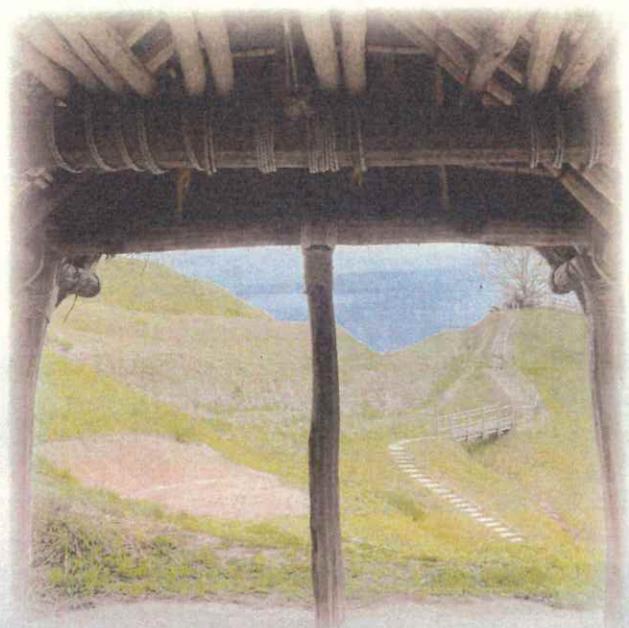
松江市

のぎ 乃木のランドマーク、

たわやまいせき じごでいせき かつた 田和山遺跡と神後田遺跡が語るもの

たわやまいせき のしらちよう かんごうしゅうらく
田和山遺跡は松江市乃白町にある弥生時代の環壕集落です。急な斜面を登っていくと、三重の環壕に囲まれた山頂部が見え、そこに立つと宍道湖や松江の街並みを一望することができます。頂上部を取り囲む三重環壕は訪れる人を圧倒させます。

たわやまいせき かんごうしゅうらく
田和山遺跡は長年、普通の環壕集落とは異なる「謎多き遺跡」と考えられてきました。近年、たわやまいせき かんごう
500mの位置で「神後田遺跡」という新たな弥生時代の環壕集落が発見され、たわやまいせき
田和山遺跡の謎解明に向けて大きな一歩を踏み出しました。



はったてはしらたてものかんごう
掘立柱建物から環壕を望む



たわやまいせき かんごう
田和山遺跡の環壕

たわやまいせき —田和山遺跡—

たわやまいせき
田和山遺跡は弥生時代前期～中期（紀元前4世紀前半～紀元1世紀初頭）にかけての遺跡です。山頂部を三重の環壕が囲み、かんごう
環壕の中には9本柱建物や5本柱建物が築かれています。通常、かんごう
弥生時代の環壕集落は、集落が取り囲んでいるのが一般的ですが、たわやまいせき
田和山遺跡の集落は環壕の外側にあり、かんごう
環壕は居住域ではない、神聖な空間を取り囲んでいたと考えられています。このような形態のかんごうしゅうらく
環壕集落は他の地域には見られず、唯一無二の遺跡といえるでしょう。

遺跡からは弥生土器や、石器が見つかり、環壕の中からは投石に使われたと考えられるつぶて石が3000個以上見つかりました。また、日本で初めて見つかった弥生時代の硯とされる品は、国内最古の文字関連資料です。



たわやまいせき
田和山遺跡でみつかった弥生土器



国内で初めてみつかった
弥生時代の硯

たわやまいせき
田和山遺跡の斜面から山頂部を見上げる

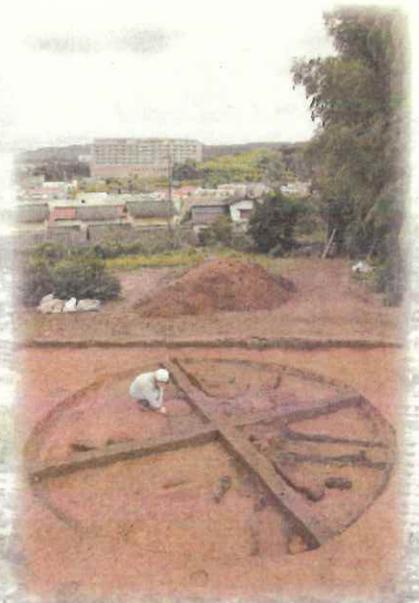
じごでいせき —神後田遺跡—

じごでいせき たわやまいせき
神後田遺跡は、田和山遺跡から北に500m、
今井書店グループセンター店の北裏の丘陵にあ
ります。発掘調査で、^{たわやまいせき}田和山遺跡ができた時代
と同じ時期（紀元前4世紀前半）に成立した、
一重の壕をめぐらせる遺跡であることがわかり
ました。^{たわやまいせき}田和山遺跡が^{さんじゆうかんごう}三重環壕と巨大な遺跡で
あるのに対し、^{じごでいせき}神後田遺跡の環壕は、比較的短
い期間でその役目を終えてしまいます。

^{じごでいせき}神後田遺跡、^{たわやまいせき}田和山遺跡はどちらも山の上か
らお互いを見渡すことができます。弥生時代に
ここに暮らした人たちはお互いを意識しながら
暮らしていたのでしょうか。^{じごでいせき}神後田遺跡に暮ら
した人が、^{たわやまいせき}田和山遺跡に移り住んだ可能性も考
えられます。



じごでいせき かんごう
神後田遺跡の環壕



じごでいせき
神後田遺跡でみつかった建物跡

じごでいせき
神後田遺跡航空写真

のぎ やよいじだい いせき と 乃木の弥生時代の遺跡からひも解く、 やよいじん たど こうつう 弥生人が辿った交通ヒストリー

松江市で最も早く弥生人の痕跡がみられるのは、^{かしまちようこうら}鹿島町古浦・^{こうぶちく}講武地区と、^{あさくみがわりゆういせき}朝酌川流域であることがわかっています。
朝鮮半島から北部九州に伝わった稲作文化は、日本海沿岸を伝って、島根半島から松江にやってきました。当時の
人々は土器をつくり、農工具を使って田を耕し米を作っていました。

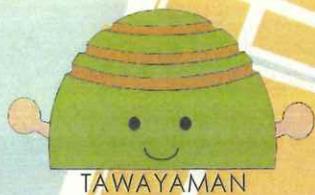
さて、この乃木地域に弥生人が暮らし始めるのは、^{かしまちようこうら}鹿島町古浦・^{こうぶちく}講武地区や^{あさくみがわりゆういせき}朝酌川流域より少し遅れた頃です。人
の動きが活発化し、^{しんじこ}宍道湖、^{おほしがわ}大橋川を経由した水上交通や、瀬戸内海地域との交流を深め南北の交通路が発達し、そ
の中継地といえるポイントがここ、乃木地域でした。

^{たわやまいせき}田和山遺跡、^{じごでいせき}神後田遺跡は、遠方からもよく目立つ山の上にあります。水路、陸路を使い乃木地域にやってきた弥
生人にとっては、まさしく乃木のランドマークであったことでしょう。弥生人にとって、^{たわやまいせき}田和山遺跡、^{じごでいせき}神後田遺跡は
交通の中継基地であったと考えられます。



たわやまいせき
発掘調査当時の田和山遺跡

のぎ 乃木の いせき 遺跡マップ



TAWAYAMAN



たわやま
田和山遺跡



弥生時代前期～中期にかけての遺跡です。山の頂上を三重の環壕が取り囲んでおり、住居は環壕の外側に作られています。環壕で囲まれた山頂部には9本柱建物や5本柱建物が築かれており、神聖な空間を環壕で取り囲み守っていたと考えられています。日本国内で他に例をみない環壕集落であり、弥生時代を代表する遺跡です。

しごで
神後田遺跡



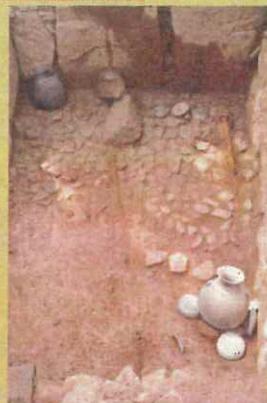
弥生時代の前期、後期に機能した遺跡です。山頂の縁辺部を一重の環壕が囲んでおり、田和山遺跡で環壕が作られた時期と同じ時期に成立しました。環壕で囲まれた空間はまだよく分かっていませんが、環壕が築絶した後に竪穴建物が築かれ、人がまた住みついていたことが分かっています。田和山遺跡が中期まで存続する中で、神後田遺跡の環壕はすぐに役目を終えています。

ともだ
友田遺跡



田和山遺跡と神後田遺跡の中間地点の丘陵上にある、弥生時代前期～後期のお墓が見つかった遺跡です。前期には石を並べて作った配石墓が築かれ、石の矢じりや勾玉、管玉が副葬品として納められていました。中期には墳丘墓、後期には四隅突出型墳丘墓が築かれ、乃木地域に暮らした有力者の墓である可能性があります。(現在は宅地となり遺跡は残っていません。写真は1981～82年の発掘調査当時の様子です。)

たわやま
田和山古墳群



田和山遺跡と同じ丘陵にある古墳群です。古墳時代後期の前方後円墳(1号墳)のほか、方墳6基、円墳2基が見つかっています。1号墳の調査では横穴式石室から須恵器の坏、蓋、提瓶や、鉄製の直刀、鎌、ガラス玉など、たくさんの副葬品が見つかりました。一帯は自然学習の森として散策ができます。四季折々の自然を楽しんでみてください。

のぎふたごつが
乃木二子塚古墳



松江市街地に所在する古墳時代後期後半の前方後方墳です。規模は全長36m、前方部長14m、高さ2.25m、後方部長22m、高さ4mで、乃木地区で最初に築かれた大型の古墳とされています。主体部はまだ分かっていませんが、発掘調査で墳丘のまわりを囲む周溝が見つかっています。